

横顔
就任インタビュー



可能性を広げ 「夢のある講座」に

講座を10年以上率いて発展させてきた長崎大学時代の先輩から、4月、教授のバトンを引き継いだ。「スタッフが生き生きと仕事に向き合う強み・伝統を継承し、『夢のある講座』を目指したい」。新天地で意欲を見せる。

島根大学医学部 消化器・総合外科学講座

ひだか まさあき

日高 匡章 教授

1999年長崎大学医学部卒業。山口県立総合医療センター外科部長、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科移植・消化器外科准教授などを経て、2023年から現職。

島根大学医学部 消化器・総合外科学講座
島根県出雲市塩冶町89-1 ☎0853-23-2111(代表)
<https://www.shimane-u-dgs.jp/>

先端的医療の提供と 人材育成を柱に

肝胆膵(すい)外科や内視鏡外科、肝移植を専門に経験を重ねてきた日高匡章氏。島根大学に赴任し、定めた講座運営の柱は二つ。「島根県民に先端的な医療を提供すること。そして、地域医療を担う外科医を育て

ることです」

先端的な医療を提供する上で軸になると捉えているのは、ロボット支援手術。現在は食道、胃、直腸、肝臓、膵臓のがんに実施しており、今後は結腸がんにも拡大する方針という。同大学医学部の前身である島根医科大学は、1989年に国内初の生体

肝移植を行ったことで知られる。現在、島根、鳥取両県で肝移植を行う施設は少なく、その再開も目標に掲げる。「肝移植を行うためには、病院の総合力が必要不可欠です。当院は麻酔科医の層が厚く、外科的な集中治療に長けている点が強み。今後は症例数の多い他施設で研修したり、長崎大学が

ら移植手術時に人的支援を受けたりするといった方法も視野に総合力を高め、再開に向けて動き出したいと思っています」。両県のニーズをつかみながら、2年以内をめどに再開を目指す。

専門医の取得、留学講座主導で後押しを

もう一つの柱の人材育成については、講座がカバーする消化器外科、乳腺・内分泌外科、小児外科の領域で専門医の取得を促進させる。これまでは取得に必要な症例をどの程度経験したかなどの管理は、個人に委ねる部分が大きかったという。今後は、講座主導の把握・管理への移行を検討している。これは若手スタッフからの提案でもあったといい、「講座主体で効率的な取得が進むシステムづくりをしよう」と、話し合っている最中です。

国際交流の推進も目標の一つ。自身は、フランスとイタリアへの留学を経験した。「入局者を増やして地域医療を支えながら、コンスタントに留学に送り出せるようにしたい。留学先で育んだ研究マインドを地域や講座に還元してもらい、次世代につないでいくことが夢であり、希望です」。実際に海外留学を志す若手がおり、数年以内の実現に向けて動き始めたところだ。人材獲得の面では、若手

が多く活気にあふれている点と、子育て中の女性スタッフが在籍し、他のスタッフもサポートしているため、ロールモデルになり得る存在が複数いる点がアピールポイントになると考えている。また、学内の外科系の3講座と合同でリクルートを開始したことを踏まえ、「外科全体でタッグを組み、広く人材を集めていけたら」と期待を込める。

前向きな情報発信を

情報発信にも力を入れたと語る日高氏。「どれだけ高度な医療を実践しているも、一般の方々へ広く周知することは難しい。地元の情報発信を模索しているところで、SNSでもポジティブな講座のイメージを打ち出して、学生や研修医にもアプローチしたいですね」。講座のウェブサイトの刷新にも着手している。

地域との連携を深める上でも、情報発信を重視する。特に消化器内科医たちとの連携を強化する方針で、「当講座の実績をまとめたパンフレットなどをつくり、対面での勉強会も開催したいと考えています」。講座の存在感を高めるために何ができるか、可能性を探る日々。「あの講座は、面白そう。漠然とでも、そのようなイメージや期待感を持ってもらえる講座を目指します」